きれいな水を守るために

沖縄県　豊見城中学校　三年　島尻　紗史

私たちの生活に欠かすことのできない水は、飲み水や生活用水としてだけでなく、農業や工業、そして多くの生き物の命を支える大切な資源である。しかし近年、その水が汚れてしまう「水質汚染」が世界中で大きな問題となっている。川や海が汚れると、そこに住む生き物だけでなく、私たち人間の健康や暮らしにも深刻な影響を及ぼす。では、どうして水は汚れてしまうのだろうか。

水質汚染の原因は三つある。一つ目の原因は、有機汚染だ。有機汚染とは、工場排水や生活排水に含まれる有害な物質が川や海に流れ込み、水を汚してしまうことである。その代表的な例が、イタイイタイ病や水俣病だ。イタイイタイ病は、工場から流れ出た排水が川を汚染し、その水を利用して育てられた農作物を食べた人々が発症した病気である。また、水俣病は、工場排水に含まれていた有機水銀が海に流れ込み、魚介類を通して人の体内に取り込まれてしまい、手足のしびれなどの深刻な健康被害を引き起こした。これらの公害は、人間の経済活動が水を汚し、多くの人々の命や生活を苦しめた事例である。

二つ目の原因は、富栄養化である。富栄養化とは、生活排水や農業で使われる肥料に含まれる窒素やリンが湖や海に流れ込み、植物プランクトンが大量に発生する現象である。例えば、琵琶湖では富栄養化によってアオコが大量発生し、水が悪臭を放ったり、魚が大量に死んでしまったりする問題が起こった。プランクトンが増えすぎると、水中の酸素が不足し、生き物が生きられない環境になってしまう。このように、私たちの便利で快適な生活が、知らないうちに水の環境を壊している場合もある。

三つ目は、ゴミ問題である。現在の日本では、家庭や学校などから毎年非常に多くのゴミが出されており、その一部が適切に処理されず、川や海へと流れ込んでいる。特にプラスチックごみは自然に分解されにくく、海洋汚染の大きな原因となっている。また、香川県では、ゴミを野焼きしてしまったことで、有害な物質が空気中に広がり、雨とともに地面や川へ流れ込み、水質汚染を引き起こした事例もある。ゴミ問題は、陸と水が深くつながっていることを私たちに強く示している。

これら三つの事例から分かることは、水質汚染の原因は一つではなく、人間のさまざまな活動が複雑に関係して水を汚しているということである。工場や家庭、農業など、私たちの身近な行動一つ一つが水環境に影響を与えている。

では私たちはどうすればよいのだろうか。まず、家庭から出る生活排水をできるだけ汚さない工夫が必要である。洗剤を使いすぎないことや、調理後の油をそのまま流さないことは、誰でもすぐに実行できる対策だ。また、ゴミの分別やリサイクルを心がけ、ポイ捨てをしないことも重要である。さらに、水や環境問題に関心を持ち、正しい知識を学ぶことで、よりよい行動へとつなげることができる。

水質汚染の原因は一つではないからこそ、それぞれの原因に合った対策や対応を行うことが大切である。そして、水を守るか汚すかは、私たち一人一人の意識と行動にかかっている。きれいな水を未来へと残すために、みんなで協力し、水質汚染を防いでいきたい。